

(主)阿南小松島線 櫛漕バイパス

● 位置図



● 概要

櫛漕バイパスは、平成19年12月8日に完成供用しました。
同バイパスは、県道宮倉徳島線との分岐点から、県道阿南勝浦線に向かう全長3.8kmの道路です。
現在の県道現在の県道阿南小松島線は沿線に小中学校があり、地域住民の生活道として、また、県南地域から徳島市への通勤通学路として利用されているにもかかわらず、道幅が狭く乗用車同士の対向が困難なため、平成9年度から総事業費27億円でバイパス方式により整備を進めていたものです。
このバイパスの供用により、周辺における渋滞緩和や交通安全に大きく寄与するものと考えております。



● 整備効果

! 生活道としての機能向上

整備前

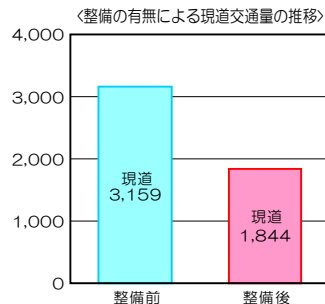
現道沿線には多くの家屋が密集しており、当該路線は生活道路として利用されている。
しかし、通過交通も多く利用しており、幅員も狭小であるため、離合困難な箇所も多く、車両及び歩行者の通行に著しい支障をきたしていました。

〈離合困難状況〉



整備後

現道の交通量がバイパスに転換したことにより、12時間現道自動車交通量は、**約4割減少**し、現道の生活道としての機能の向上が期待できます。



! 周辺路線の円滑化

整備前

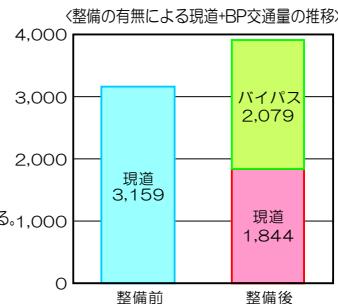
当該区間は、小松島南部及び阿南市北部と勝浦町を繋ぐ主要地方道ですが、幅員が狭小であるため、その役割を(一)勝浦羽ノ浦線に依存していました。そのため、H17道路交通センサス※1によると(一)勝浦羽ノ浦線の**混雑度※2は、1.62**と大変混雑していました。

整備後

当該区間の断面交通量は、**約2.5割増加**しました。
これは、バイパス整備により小松島南部及び阿南市北部と勝浦町を繋ぐ路線としての機能が強化されたためであると考えられます。
よって整備前では他路線を利用していた東西方向の通過交通が当該道路に流入したため、**周辺路線の円滑化**が図られたと推測できます。

※1 道路交通センサス
「道路交通センサス」とは、国土交通省が関係省庁、都道府県、等と連携して全国で一斉に実施する、自動車の使われ方や道路の交通量などを調べる交通実態調査です。

※2 混雑度
混雑度とは道路の混雑状況を示す指標です。
1.00未満：混雑がなく、円滑な走行が可能。
1.00～1.25：混雑する可能性が1～2時間ある。
1.25～1.75：ピーク時間を中心に混雑が発生。
1.75以上：慢性的に混雑している状況

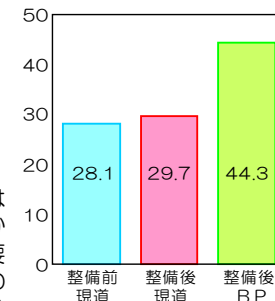


! 旅行速度の向上

整備前 整備後

バイパス整備前後の当該区間(バイパス起点～白鷺橋東詰交差点)におけるピーク時旅行速度は「整備前の現道」と「整備後のBP」を比較した場合、約16km/h向上しています。

また、数字には表れてませんが、現道は離合困難な家屋密集地を通過することから、対向車がある際には、より時間を要し、対向車がない場合においても離合のことを考えて走るというストレスが生じていたが、バイパス整備によりそれも緩和されたと考えられます。



旅行速度が向上し、車の流れがスムーズになると、自動車から排出されるCO2が抑制されることになります。

